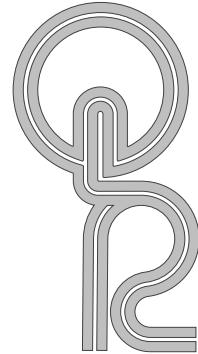


第四紀通信

Vol. 5 No. 2, 1998



写真説明 喜界島の最高点百ノ台から眺めた東岸の完新世サンゴ礁段丘群。
広いのはII面，その外側の植生がない部分はIIIおよびIV面（太田陽子撮影）

Vol. 5 No. 2		March 31, 1998	
地球惑星科学関連学会合同大会	2	日本水文科学会学術大会	11
日本第四紀学 1998 年大会	4	大陸棚の堆積学国際会議案内	11
ミニシンポジウム報告	7	第四紀研究連絡委員会報告	12
テフラ研究委員会巡検案内	8	会員名簿の発行について（重要）	15
INQUA-COTAV 巡検案内	8	評議員会報告	13
IGBP-PAGES ニュース	9	会員消息	15

1998年地球惑星科学関連学会合同大会（第3報）

1. 合同大会会期：1998年 5月26日（火）～ 5月29日（金）
2. 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（〒151 東京都渋谷区代々木神園町3-1）
小田急線「参宮橋」駅下車 徒歩約7分
地下鉄千代田線「代々木公園」駅下車 徒歩約12分（案内図参照）

『第四紀』セッション（記号Lc）のプログラム

オーラルセッション：1998年5月27日14:00～17:30 C401会場

ポスターセッション：1998年5月27日17:30～19:30（当日10:00から掲示可能）

オーラルセッション

- 14:00-14:15 鈴木毅彦・藤原 治：上総層群の中期更新世テフラと東北地方のテフラの対比
- 14:15-14:30 伊藤久敏：フィッシュ・トラック法による第四紀火山灰の年代測定
- 14:30-14:45 田中克人・根本直樹・田中和夫：朝鮮民主主義人民共和国，白頭山の埋没樹幹の¹⁴C年代
- 14:45-15:00 伊倉久美子・太田陽子：朝日山地西麓の完新世海成段丘
- 15:00-15:15 山崎晴雄・山下佐祐美・田中竹延：入山瀬断層の活動履歴
- 15:15-15:30 斎藤耕志・福沢仁志・奥村晃史ほか：諏訪湖湖底堆積物の堆積異常層と過去16,500年間の断層活動
- 15:30-16:00 各ポスター講演者：ポスター001～006のpreview
- 16:00-16:10 休憩時間：
- 16:10-16:25 中川康一・田村岳史：泥質堆積物の電気比抵抗特性と堆積環境
- 16:25-16:40 堀井雅恵・酒井英男・柏谷健二ほか：バイカル湖堆積物の磁化特性から見た気候・環境変動
- 16:40-16:55 木村和雄：Sub-Himalayan Piggyback Basins
- 16:55-17:10 三浦英樹・瀬戸浩二・前杵英明ほか：貝化石殻の酸素同位対比と第四紀後期の東南極氷床の融氷史
- 17:10-17:30 各ポスター講演者：ポスター007～010のpreview

ポスターセッション

- 001 綿貫拓野：北九州のレス堆積物のTL年代測定
- 002 星住リベカ：羊蹄火山北麓の俱知安盆地の湖成堆積物と支笏火砕流
- 003 田村糸子：飛騨地方に分布する高山軽石とNg-1との対比の可能性
- 004 北村 繁：回帰分析による中米・パカヤ火山最終ステージの噴火年代の推定
- 005 楠本成寿・福田洋一・竹村恵二ほか：中央構造線両端部の第四紀のテクトニクス
- 006 桑原拓一郎：上北平野東部のMIS5海成面の再検討
- 007 加藤 研：網走湖湖底堆積物に記録された現世の堆積状況の変化
- 008 川瀬久美子：豊川低地における完新世後半の海水準変動
- 009 金松敏也・藤岡換太郎・池原研ほか：CBF海域の遠洋性堆積物の特徴
- 010 仲谷英夫・兵頭政幸・三枝春夫ほか：ユーラシア東南部の後期新生代環境変遷

合同大会全体のスケジュール

(1) オーラルセッション

会場	5月26日午前	5月26日午後	5月27日午前	5月27日午後
IC	Ac 全地球史 / 組織的研究	同左	Aa 21世紀	Aa 21世紀
IM		Le クラトン / 沈み込み帯	Lb 気候 / 環境変動	Ab 全地球史 / 炭素循環
C101	Af GPS 気象学	Af GPS 気象学		Db 地殻変動
C102	Vb 火山活動と災害	Vb 火山活動と災害	Vd マグマ移動	Va 火山深部
C304	Aj 惑星 / 天体プラズマ	Aj 惑星 / 天体プラズマ	Aj 惑星 / 天体プラズマ	Eg 太陽圏
C309	Ea 大気圏	Ea 大気圏	Cc 地殻流体	Ma 地層処分
C310	Pb 太陽系小天体	Pb 太陽系小天体	Pa 惑星科学	Pa 惑星科学
C311	Ee 磁気圏 / 電離圏	Ee 磁気圏 / 電離圏	Ee 磁気圏 / 電離圏	Ef 磁気圏構造
C401	Sk 地球を掘る	Sk 地球を掘る	Eb 内部電磁現象	Lc 第四紀
C402	Mc 岩石 / 鉱物 / 資源	Mc 岩石 / 鉱物 / 資源	Mb 地惑物質の物理化学	Ag 揮発性元素
C409	Cb 地球表層化学	Cb 地球表層化学	Sb 地震計測 / システム	Sf 活断層と古地震
C416	Sn 地震一般	Sn 地震一般	Sg 活断層深部物性	Sg 活断層深部物性
C417	Sc 地震発生物理	Sc 地震発生物理		Sd 震源近傍強震動
C501	SL 地殻構造 / 活動	SL 地殻構造 / 活動	Ae テクトニクス	Ae テクトニクス

会場	5月28日午前	5月28日午後	5月29日午前	5月29日午後
IC	Ak 地球深部	(測地総会)	Ak 地球深部	Ak 地球深部
IM	Lg 海洋地殻生成		Lf Ridge Flux 計画	Lf Ridge Flux 計画
C101	Da 測地学一般	(電磁気総会)	Dc 地球計測技術	
C102	Va 火山深部	(惑星総会)	Vc 火山発達	Vc 火山発達
C304	Ed 電離圏 / 熱圏		Ld 地質大構造 / テクトニクス	同左
C309		(火山総会)	Ah 月	Ah 月 Ai 火星
C310	Pa 惑星科学		Pc 宇宙塵	Pc 宇宙塵
C311	Ef 磁気圏構造		Eh プラズマ素過程 / 波動	同左
C401	Md 地惑物質の組織と数理		La バクテリア活動	
C402	Ag 揮発性元素		Sf 活断層と古地震	Sf 活断層と古地震
C409	Si 地震に伴う諸現象			
C416	Ad 地震フロンティア			
C417	Sm 地震動と地震災害	(地震総会)	Sm 地震動と地震災害	Sm 地震動と地震災害
C501	Se 地震活動		Sh 地震電磁放射	Sh 地震電磁放射

各セッションの内容については第四紀通信 Vol. 5, No. 1 を参照して下さい。
 ゴシック体で標記したものは第四紀学会が共同で主催するセッションです。
 午前のセッションは概ね 9:00 ~ 12:30, 午後のセッションは概ね 14:00 ~ 17:30 ですが, 日 (特に最終日) とセッションによって異同があります。合同大会ホームページ(<http://gakukai.stp.isas.ac.jp/kikaku/sortedHTML/ALLsessions.html>)または後日配布される合同大会プログラムでご確認下さい。

(2) ポスターセッションなど

5月26日夜(17:30-19:30) ポスターセッション Ac, Af, Vb, Ea, Pb, Ee, Sk, Mc, Cb, Sn, Sc, SL

5月27日夜(17:30-19:30) ポスターセッション Ae, Ag, Aj, Cc, Eb, Ef, Eg, **Lb, Lc, Ma**, Mb, Pa, Sb, Va, Vd

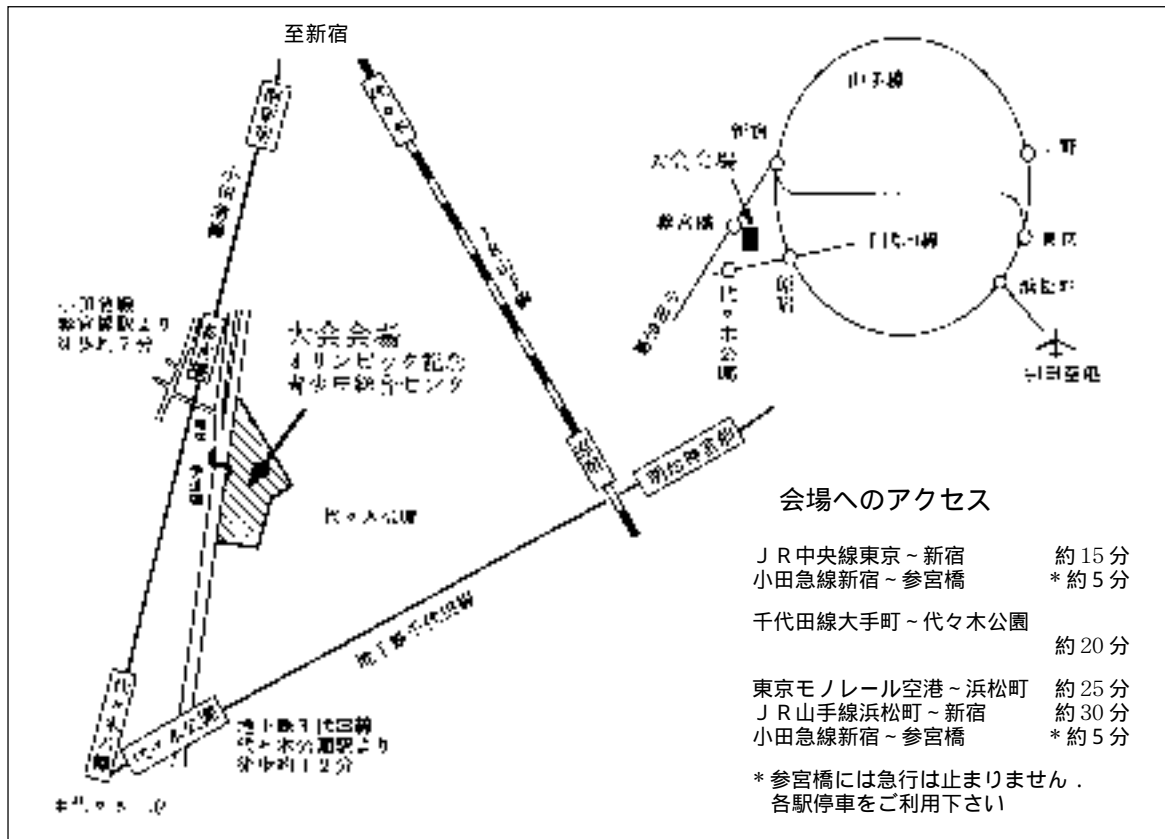
5月28日夕(17:30-19:30) フロンティア・セミナー(仮称)

全分野の若手を対象とし、21世紀に向けての地球惑星科学の展望を論じます。

5月28日夜(17:30-19:30) ポスターセッション **Ad**, Ak, Da, Db, Ed, La, Lg, Md, Pa, Se, Sg, Si, Sm

5月29日昼(11:00-13:00) ポスターセッション Ah, Ai, Dc, Eh, **Ld**, Lf, **Sf**, Sh, Vc

合同大会会場案内図



日本第四紀学会 1998 年大会 - 総会・研究発表会 (第 2 報)

1. 日程 1998 年 8 月 26 日 (水) 一般研究発表, 評議員会
8 月 27 日 (木) 一般研究発表, 総会, (終了後懇親会)
8 月 28 日 (金) シンポジウム
8 月 29 日 (土) 巡検, 普及講演会
2. 会場 神奈川県立博物館 (自然) 生命の星・地球博物館
〒250-0031 小田原市入生田 499
3. 事務局 神奈川県立博物館 (自然) 生命の星・地球博物館
日本第四紀学会 1998 年大会準備委員会
大会準備委員長: 濱田隆士
連絡先: 松島義章・平田大二
TEL 0465-21-1515
4. シンポジウム (神奈川県立博物館との共催)
テーマ: 「相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス」
世話人: 太田陽子 (専修大学), 山崎晴雄 (東京都立大学), ほか
5. 巡検 (定員, 費用, コースなどの詳細は次報)
題目: 国府津松田断層・神縄断層沿いの地域における第四紀層の層序と変動
日時: 1998 年 8 月 29 日 (日帰り)

案内者：山崎晴雄・今永 勇

概要：つぎの諸事項を観察・討論する予定である：大磯丘陵西部の第四紀層の層序と変位，諸活断層の変動と相互の関係，足柄層の層序と変形，足柄層からみた丹沢山地の隆起

6. 普及講演会 (神奈川県立博物館との共催)
 8月29日(土)(講義室)13時30分から15時
 講師：松田時彦(西南学院大学)
 演題：「神奈川県西部の活断層と地震(仮題)」

7. 一般研究発表の申し込み

今大会では、一般研究発表をオーラル・セッションとポスター・セッションの2つに区分します。ポスター・セッション会場は、オーラルセッション会場と同じフロアの休憩室を兼ねた会場で、ポスターの掲示は終日可能です。90cm×180cmのボードが2枚使用可能です。

一般研究発表での講演を希望される方は次ページにある「発表申込用紙」(コピーでよい)に所定の事項を記入の上、「9.講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピー1部を、6月5日(金)までに(必着厳守)行事委員までお送りください。行事委員原稿の受理をもって受け付けといたします。一般研究発表では1人一件のみの発表が可能です。オーラル・セッションの発表時間は1人およそ12分(質問時間を除く)程度を予定しています(変更の可能性有り)。発表時間を厳守していただくために、スライド・OHPの使用は合計で8枚以内とさせていただきます。十分な説明や討論を希望する方には、ポスター・セッションへの申し込みをお勧めいたします。オーラル・セッション、ポスターセッションともに講演要旨集に2ページ執筆していただきます。

要旨集原稿の送付先

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3 地質調査所海洋地質部
 日本第四紀学会行事委員 斎藤文紀あて
 (TEL 0298-54-3772, FAX 0298-54-3533 E-Mail: yoshi@gsj.go.jp)
 (送付先は準備委員会ではありません。お間違えなきようご注意ください。)

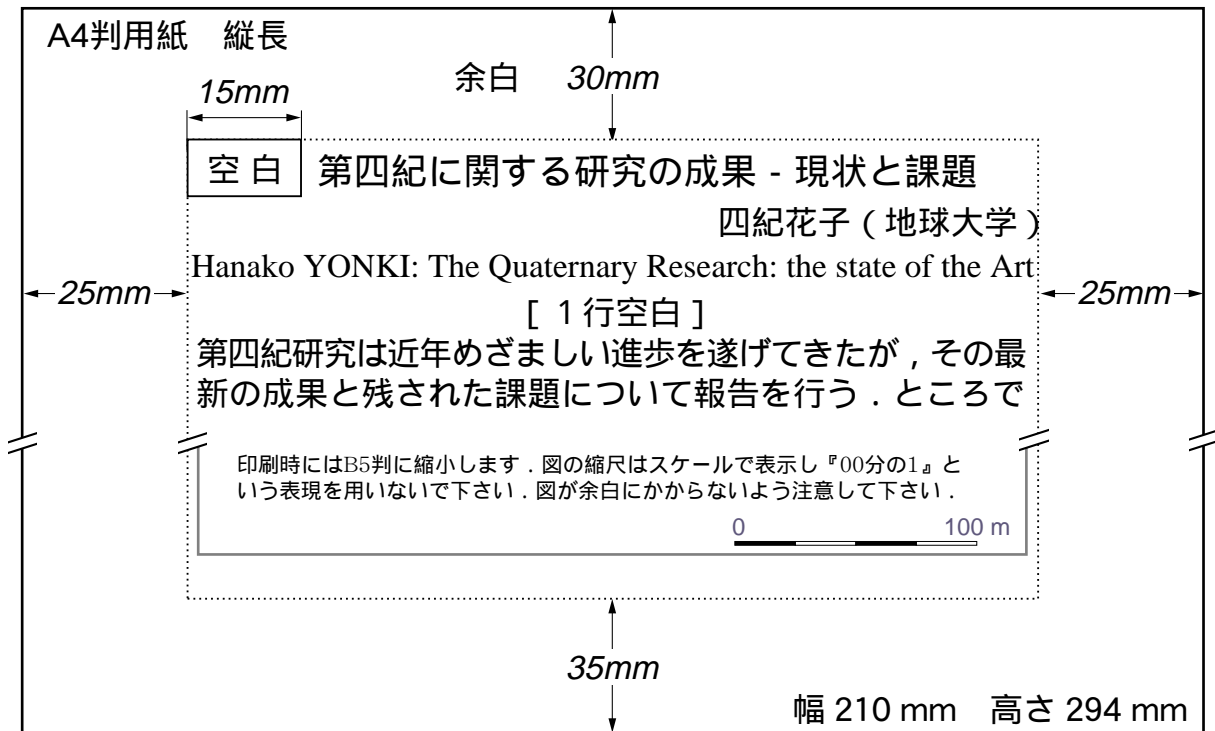
8. シンポジウムの原稿提出

シンポジウムで発表される方は、「9.講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿およびそのコピーに、「発表申込用紙」(次頁：コピーでよい)を添えて、6月5日(金)までに上記の行事委員までお送りください。原稿枚数は2ページまたは4ページでお願いします。

9. 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例：次頁)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて(左端から4.0cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも、1.5cmあけて左詰めで続けてください。和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコをいれて簡潔に書いてください。

英文著者名・表題は、和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつなげて書いてください(所属は不要)。本文は英文表題の次の1行を空けて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年(2014年)の要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。ワープロ使用の場合は濃く印字してください。手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合は黒インクを使用し原稿用紙に直接書くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようご注意ください。印刷時にA4版の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで、必ずスケールを入れてください。



きりとりせん

発表申し込み用紙

氏名 (所属)						
	題目					
発表内容 講演要旨には 掲載しません						
連絡先	〒					
	Phone					
発表種別 をつける	一般研究発表			シンポジウム		
	オーラルセッション	どちらでもよい	ポスターセッション			
スライド・ OHPの使用 をつける	スライド (8 枚以内)		スライド + OHP (8 枚以内)		OHP (8 枚以内)	

喜界島のサンゴ礁段丘に関する ミニシンポジウム - 報告と講演要旨

1998年2月14日(土)午後,日本第四紀学会評議員会のあとで,学会主催の「喜界島のサンゴ礁段丘に関するミニシンポジウム」がお茶の水女子大学で開催され,午後2時から午後6時までの4時間にわたって5つの発表とそれに関する討論が行われた。オーガナイザーは現在同島で進行中の三つの文部省科学研究費補助金による研究の代表者,太田陽子・大村明雄・中森 亨の3名。年度末の忙しい時期であったが,50人をこえる参加者があり,質疑応答も活発に行われた。シンポジウムの内容は「第四紀研究」に発表される予定。

講演要旨

喜界島のサンゴ礁段丘に関する研究史と問題点 - パプアニューギニア,ヒュオン半島との比較 - 太田陽子・大村明雄

喜界島は琉球海溝にもっとも近い地殻変動の活発な地域である。また北緯28°というサンゴ礁成長の北限にある。そのため全島がサンゴ礁段丘からなり,同位体ステージ5eの段丘の海拔高度が224mを超え,隆起速度は1.8m/kaに達し,4段に細分される完新世段丘も発達する。ここでのサンゴ礁段丘の研究史を,更新世段丘,完新世段丘にわけて総括し,問題点を指摘した。さらに,世界の海面変化の模式地の一つであるパプアニューギニア,ヒュオン半島での最近の成果を報告し,条件を異にする2地域でのサンゴ礁段丘の形態と形成史との相違点・類似点をまとめ,とくに相違点についてその要因となるものに論及した。

喜界島の更新世堆積物とそのウラン系列年代について

大村明雄・佐々木圭一・寺尾大介・村上和男

喜界島に分布する更新統は,酸素同位体ステージ7ないしはそれ以前の中部更新統と,その上位を不整合に薄く覆う上部更新統から成る。そして,後者には70~40kaのステージ3相当層が含まれるが,最近のスペクトル $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ 年代測定によって,ステージ3当時のサンゴ礁が島の中西部や北東部における高度20~60mの地点にも点在することが確認された。それらの分布域における炭酸塩堆積物の岩相は,下位から上位へ,大型底生有孔虫・石灰藻球石灰岩・細粒砕屑石灰岩・粗粒砕屑石灰岩およびサンゴ石灰岩と変化する。このような岩相変化を示す一連の堆積物は,Tsujii(1993)によって報告された宮古諸島沖の島棚・島棚斜面に分布する現世炭酸塩堆積物相とそれらの堆積水深と比較することに

よって,ステージ5からステージ3にかけての相対的な海面低下期に,外側島棚から水深10m以浅に堆積した上方浅海化シーケンスと考えられる。

喜界島志戸桶海岸における完新世サンゴ礁段丘形成史

佐々木圭一・太田陽子・大村明雄

南西諸島喜界島の北東部志戸桶海岸で掘削した5本のコア試料の岩相記載と,サンゴ化石のスペクトル $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ 年代から,完新世離水サンゴ礁の発達様式を復元した。その結果,サンゴ礁本体を構成するサンゴ石灰岩が,10ka以降に堆積した砕屑性石灰岩の上に,6.6ka以降急激に成長・堆積したことが明らかになった。そして,5.3kaに礁嶺部が離水した。

喜界島完新世造礁サンゴ群集の遷移と礁の成長 杉原 薫

コードラット法を用いた定量的な群集解析の結果,各段丘で見られる化石群集は喜界島の現生の礁斜面上部のそれらとほとんど変わらないことがわかった。ただしII面内側の群集は,現在の石垣島の礁池のものに対比された。またこれらの化石群集とそれらの生息深度をもとにした各段丘形成時の標高と年代は,I面が9~11mで7,000~6,000 yrs B.P.,II面は6.5~7.0mで6,000~3,400 yrs B.P.,III面は4.5~5.0mで3,400~2,200 yrs B.P.,IV面は2.5~3.0mで2,200~1,200 yrs B.P.となった。

造礁サンゴ *Porites* に記録された完新世初期の 酸素・炭素同位体比

中森 亨・木山 修・山田 努

喜界島の現生及び完新世初期(9200年前)の造礁サンゴ *Porites spp.* の骨格に記録された酸素・炭素同位体比を測定した。現生試料は水深9mの礁斜面からスキューバダイビングによって得られたものであり,化石試料はII面の礁池で1996年に専修大学と金沢大学が掘削したボーリングコアに含まれていたものである。造礁サンゴ骨格の酸素同位体比は,氷床量,水温,塩分,Vital effect によって決定されていると仮定し,同位体比の変化を説明するモデルを作成した。石垣島米原沖の造礁サンゴの酸素同位体比を基にして,以下のような vital effect を含めた値($\delta^{18}\text{O}$)の換算式を作った。

$$\delta^{18}\text{O} = -0.182T + 0.04D - 0.55$$

ただし,T(°C)は水温,D(m)は水深である。年輪幅によって推定した水深と値から,現在と9200年前の年平均海水温はそれぞれ21.9°Cと22.0°Cと算出された。

第7回テフラ研究委員会野外巡検 -
北部ファッサマグナ野外巡検のお知らせ

日本第四紀学会テフラ研究委員会では、昨年の会での話し合いを参考に、1998年の活動の一つとして次のような野外巡検を企画しました。ふるってご参加下さい。

- 日時：1998年7月5日(日)-7日(火) 2泊3日
場所：飛騨山脈南西部～犀川丘陵～魚沼丘陵
巡検のテーマ：飛騨山脈起源の第四紀前～中期大規模火砕流堆積物と降下テフラ
内容：
1) 第四紀前～中期大規模火砕流堆積物とそれに続く広域テフラの層序編年
2) テフラに基づく飛騨山脈、松本盆地、犀川丘陵、魚沼丘陵の形成史
およそのコース：
7/5 JR塩尻駅(10.00集合) - 平湯 - 高山盆地 - 乗鞍高原(泊)
7/6 乗鞍高原 - 松本盆地 - 犀川丘陵 - 長野周辺(泊)
7/7 長野周辺 - 魚沼丘陵 - JR越後湯沢駅(18.00頃解散)
(若干の変更があります)

案内者：原山 智・長橋良隆・町田 洋・鈴木毅彦

連絡先：鈴木毅彦 八王子市南大沢1-1
東京都立大学理学研究科地理学教室
Phone: 0426-77-2594 Fax: 0426-77-2589
e-mail: suzukit@comp.metro-u.ac.jp

参加費：約30,000円(宿泊費, バス代, 昼食代)
最後に精算します

申込：締切り日 - 5月29日(金)
・都立大・鈴木毅彦(連絡先上記)まで, 参加希望者の氏名・連絡先(電話とファックス番号, あればe-mailアドレス), その他質問, 連絡事項などをご連絡下さい。
・申し込みと同時に申込金10,000円をお支払い下さい。振り込み先は:
郵便振替口座: 00190-0-720271
名義: 鈴木毅彦
・人数超過が予想されますのでお申し込みはお早めをお願いいたします。先着順で40名のお申し込みを受け付ける予定です。
・申し込み後6月10日までにキャンセルされる場合は申込金を返却します。
・参加人数が規定に達しない場合, 中止することがあります。
・6月中旬に参加予定者には最終案内を差し上げます。

日本第四紀学会テフラ研究委員会事務局
町田 洋・鈴木毅彦

International Inter-INQUA Field Conference and Workshop
on Tephrochronology and "Man and Volcano"

1998年8月24日から28日まで、フランス南部の火山地域である Massif Central において火山活動と人間活動 - テフロクロノロジーと考古学に関する国際シンポジウムが開催されます。

日時: 24-29 August, 1998
場所: Le Puy, France
主催: Commission on Tephrochronology and Volcanology (COTAV-INQUA)
International Union of Prehistoric and Protohistoric Sciences (UNESCO)
シンポジウム: 最終氷期末期の世界の火山活動・火山灰層序と考古学・人類の火山地域への適応を中心にテフラ層序研究・年代測定技術・気候と火山・テフラ同定技術・テフラ層序の学際的研究など幅広く議論する。ビデオセッションも充実させる。
巡検: Le Puy 周辺地域 (Mézens, Meygal, Devès) 地域の第四系考古学。
Massif Central の第四紀火山とテフラ
興味をお持ちの方は
Michel Léger
Syndicat Mixte de la Haute-Vallée de la Loire et du Mezenc Mairie
43370 Solignac-sur-Loire France Tél.: 33.4.71.03.11.46 Fax: 33.4.71.03.12.77
E-mail: loirmez@es-conseil.fr http://www.qub.ac.uk/iis/inqua/inqua2.htm
または
第四紀学会テフラ研究委員会 町田 洋 [E-mail: QYP04721@niftyserve.or.jp]
までお問い合わせ下さい。

IGBP-PAGES ニュース

1. 国内の動き

A. PAGES 小委員会の構成

氏名	所属・職名（関連プロジェクト）
小野有五	北海道大学地球環境科学研究科 (PEGES-SSC, PEP II-SSC)
井内美郎	愛媛大学理学部 (BDP, PEP II)
岩田修二	東京都立大学理学部 (HIPP, PEP II)
遠藤邦彦	日本大学文理学部地球システム科学科 (PEP II)
太田貞明	農林水産省森林総合研究所 (PEP II)
大場忠道	北海道大学地球環境科学研究科 (IMAGES)
川幡穂高	工業技術院地質調査所海洋地質部 海洋資源研究室 (IMAGES)
茅根 創	東京大学理学系研究科 (LOICZ)
鬼頭昭雄	気象庁気象研究所気候研究部 第1研究室 (PMIP, WCIRP の CLIVER)
斎藤文紀	工業技術院地質調査所海洋地質部 海洋底質課 (IMAGES, SCORE)
白岩孝行	北海道大学低温科学研究所 地球雪氷学講座 (COP)
高橋修平	北見工業大学一般教育等・自然系 (MAGIC)
多田隆治	東京大学大学院理学研究科 (PEP II)
西尾文彦	北海道教育大学釧路校総合科学課 (GLOCHANT, ITASE)
平川一臣	北海道大学大学院地球環境科学 研究科 (ANTIME)
福沢仁之	東京都立大学理学研究科 (COE, PEP II)
藤井理行	国立極地研究所北極圏環境研究 センター (ICAPP)
松本英二	名古屋大学大気水圏科学研究科 (PEP II)
三上岳彦	東京都立大学理学部理学研究科 (PEP II)
山縣耕太郎	上越教育大学学校教育 (INQUA-COTAV)
渡邊興亞	国立極地研究所 (PICE)

B. 日本学術会議平成9年度IGBPシンポジウム

1) 標記シンポジウムは2月16, 17日の2日間、日本学術会議講堂で行われた。2月17日は午前中、各小委員会からの報告が行われ研究のハイライトが紹介された。1委員会あたり10分という限られた時間だったが、PAGES小委員会では次のような活動報告のあと、ポスター・セッションに参加した多田委員、藤井委員がポスターの紹介を行った。

2) 小野 PAGES 小委員会委員長による活動報告の要旨

PAGES に対する日本からの貢献は次の4つにまとめられる。(1) PEP II 計画, (2) 南極ドーム・コア掘削計画, (3) BDP, (4) 環オホーツク計画。

- (1) ではアジア・モンスーンの変動にターゲットを絞り、GRIP コアとの対比や、最終氷期、最終間氷期に繰り返し生じた急激な変動の成因について、とくにアジア・モンスーンとの関わりを研究している。内陸アジアからの黄砂フラックスの変化はグローバルな気候変動に影響を与える可能性が指摘されており、モンスーン変動が地球環境変動のトリガーとなるかどうかを明らかにすることが現在の課題である。これに関連して多田委員のポスター発表がある。
- (2) では流動の生じないドーム Fuji 頂部で2500m 以上の掘削が完了し、これまでの Vostok コアとの対比や GRIP コアとの対比が世界の関心を集めている。とくに PEP II トランセクトとの関連において、このコアのもつ意味は大きく、今後の解析が注目される。これに関連して掘削グループによるポスター発表がある。
- (3) バイカル湖の掘削もすでに一部が終了し、PEP II に関わる浅い部分のコアは解析が進行中である。バイカル湖のコアはシベリア高気圧の変動をみるのには最もよい位置にある。これに関連しては井内委員によるポスター発表がある。
- (4) 環オホーツク計画は北大・低温研が中心となりロシアとの共同で研究を進行中である。PAGES のプロジェクトとして立ち上がっているわけではないが、PEP II のトランセクト上では重要な位置にあり、今後の成果が期待される。

(2) ~ (4) はそれぞれ文部省、環境庁などにより予算化されているが、IGBP 関連予算ではない。また(1)については現在、全く予算づけされておらず、今後の御支援をお願いしたい。

C. 2月17日 PAGES 小委員会の議事録(抄)

1) 報告事項

- (1) まず、学術会議で用意した名簿の確認を行った。
- (2) PAGES の FOCUS と書かれた資料を用いて、PAGES の現在の活動状況 [(1) ~ (3)], 日本の PEP の活動状況 [(4)], 今後の予定 [(5) ~ (7)], 第16期からの申し送り事項 [(8) ~ (10)] について委員長より説明があった。PAGES の活動に関しては、(7) の最後にのって

いるホームページを各自、参照していただきたい。

- (3) 第1回 PAGES Open Science Meeting について.[後述]
- (4) ANTIME (Antarctic Ice Margin Evolution) について平川委員から別紙資料を用いて説明があった。
- (5) PICE (Polar Ice Core Experiment), ITASE (International Trans-Antarctic Scientific Expedition), ICAPP (International Circum Arctic Paleoclimate Project), GLOCHANT (Global Changes and Antarctica) について藤井委員からドームFujiの掘削と関連して詳しい説明があった。ドームFujiでは2503 mまで掘削が終了、現在3つの氷期サイクルが見つかっている。アイスレーダーによる観測では岩盤まで掘ると7 cycleの氷期の記録が見つかる可能性が示唆される。
- (6) COTAV (Committee of Tephra and Activity of Volcanism--INQUA) 山縣委員からテフラのカタログづくりの進捗状況と、COP (Circum Okhotsk Project)でのテフラ調査についての説明があった。
- (7) 中国でのDrilling Project について遠藤委員からタクラマカン、ジュンガル盆地と太湖の掘削について報告があった。今後、中国が推進している East Asia Continental Drilling Project への協力を含めて討議していくことになった。
- (8) PMIP について 鬼頭委員から別紙資料に基づいて、6 kと21 kの古気候復元のモデリング実験についての報告があった。6 kについては別紙のような世界約20のモデルが公表され、その内容が相互に検討されている。21 kについてはまだ一部であり、今後の検討課題である。
- (9) ODP 多田委員から南シナ海での掘削、IMAGESプロジェクトとの関連などについて報告があった。
- (10) IMAGES 川幡委員から、科技庁の振興調整費により、年間2000～3000万円程度の使用が可能になったこと、これによってIMAGESへの分担金の支払い(約125万円/年)のほか、熱帯赤道太平洋でのサンゴを用いたエル・ニーニョの研究、フランスの船を用いたジャワ島周辺でのコア掘削などが可能になったことが報告された。東シナ海と日本近海での掘削については現在、フランス側と交渉中である。

2) 討議事項

- (1) PAGESの研究をアピールするために、地球惑星科学合同学会をはじめ、それぞれの所属学会で、PAGESセッションのようなものを設け、学会ごとにアピールするほか、ドーム

Fujiのコア採集が完了したのを機に、コアから読みとれる情報、今後、解析すべき情報と、これまでのPEP トランセクトでの研究成果をつきあわせるようなシンポジウムを開くべきであるという意見が出され、了承された。地球惑星科学合同学会では、Lb「突然かつ急激な気候・環境変動のダイナミクス」が、このPAGESセッションに最も近いので、それにできるだけ参加していただきたい。連絡先は東京都立大学・福沢委員 (FAX: 0426-77-2589 E-mail: fukusawa@comp.metro-u.ac.jp)。電子メール締切は2月27日。

- (2) PAGES小委員会の役割の第一は、情報交換。できるだけ連絡を密にすること。手間を省くため、E-mailでの連絡を主にやっていきたいと考える。委員長あて各自のE-mail addressをお知らせ願いたい。あて先: yugo@ees.hokudai.ac.jp

2. 国際的な動き

A. PAGESのFOCUSとCore Project

現在PAGESでは以下のFOCUSとCore Projectが立ち上がり、あるいは立ち上がるようとしている。

FOCUS I

- a. PEP I & IAI (R. Bradley)
- b. PEP II (T. Liu/Y. Ono/Z. Guo)
- c. PEP III (F. Gasse et al.)
- d. IMAGES (L. Labeyrie, T. Pederson)
- e. IDEAL (E. Odada)
- f. PAGES/CLIVAR (J. Overpeck)
- g. PALEOMONSOON
- h. Continental Drilling - including Baikal (F. Oldfield)

FOCUS II

- a. CALE/ICAPP (R. Bradley)
- b. Ice Mass Balance and Sea-level + GLOCHANT (D. Raynaud, C. Lorius)

FOCUS III

- a. Human impacts on Fluvial Systems (R. Wasson)
- b. BLOP (R. Wasson)
- c. Human Impacts on Terrestrial Systems (F. Oldfield)
- d. European Paleoclimate and Man

FOCUS IV

Activity 1:

- a. Volcanic influences (R. Bradley, F. Oldfield)
- b. Solar influences (R. Bradley)
- c. Greenhouse gases and aerosol influences
- d. Abrupt Climate Change and Internal Climate System Dynamics

Activity 2:

- a. PMIP (J. Overpeck, M. Lautenschlager)
- b. PMAP & BIOME 6000 (J. Overpeck)

FOCUS V

- a. New Proxies /Isotope calibration. (F. Oldfield)
- b. Chronological Advances
- c. Databank activities (J. Overpeck)

B. PAGES に関する会議

- 1) 第1回 IGBP PAGES Open Science Meeting (詳細は第四紀通信Vol.5, No.1掲載) "Past Global Changes and Their Significance for the Future"

- 場所: 英国ロンドン大学 Senate House
- 日程: 1998. 4. 20-23
- 2) Past Global Changes Symposium (PEP II) 標記の PEP を中心とした PAGES 関係のシンポジウムが IAG の 1998 conference の中で行われます.
- 場所: University of Notre Dame Australia, Fremantle, Australia
- 日程: 1998. 6. 29-7. 3
- 連絡先: John Dodson (Department of Geography, The University of Western Australia) Phone:+61 8 9380 2697 Fax:+61 8 9380 1054

(文責: 遠藤邦彦)

1998 年度日本水文科学会学術大会・総会のお知らせ

- 1. 大会期日: 1998 年 6 月 20 日(土) ~ 21 日(日)
- 2. 大会会場: 三重大学講堂三翠ホール(〒514-8507 三重県津市上浜町 1515)
- 3. 大会日程: 6 月 20 日(土) 10:00 ~ 19:00 一般発表, シンポジウム, 総会, 懇談会
6 月 21 日(日) 10:00 ~ 16:00 一般研究発表, WG 研究発表
- 4. 大会費用: 参加費 1,000 円(大学院・学部学生 500 円), 予稿集代 2,000 円
懇親会費 5000 円(大学院・学部学生 3000 円)
- 5. シンポジウムの詳細
 - (1) シンポジウム課題名: 「自噴地下水の水文学」
 - (2) オーガナイザー: 森 和紀(三重大・教育)
 - 話題提供者(順不同)と発表内容
 - 1) 杉崎隆一(名城大): 水質を指標とした自噴地下水の流動, 水質の変化
- 大垣自噴帯(濃尾平野)
コメンテーター...杉浦 孜(愛知教育大)
 - 2) 安田 守(岐阜県立図書館): 自噴帯後退の経緯, 自噴地下水の利用と地域の関わり
- 大垣自噴帯
コメンテーター...高村弘毅(立正大)
 - 3) 小林正雄(大阪教育大): 自噴地下水の化学特性, ラドンをトレーサーとした流動 - 琵琶湖畔自噴帯
コメンテーター...近藤昭彦(千葉大)
 - 4) 尾崎淳史(コクド鑑定・調査(株)): 自噴地下水の挙動, 涵養機構 - 北伊勢自噴帯
コメンテーター...近藤 武(三重大)
 - 5) 交渉中

* 詳しいプログラムなどは決定次第学会ホームページに掲載されます。

URL: <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jahs/index.html>

- 5. 連絡先 〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1 筑波大学地球科学系
日本水文科学会事務局 嶋田 純 電話/FAX 0298-53-2368

大陸棚の堆積学に関する国際会議

1998 年秋 2 つの国際会議が開かれます。
国内連絡先: 斎藤文紀 (yoshi@gsj.go.jp)

SEPM-IAS Research Conference
STRATA AND SEQUENCES ON SHELVES AND SLOPES

Sicily, Italy. September 15 to 19, 1998

For detailed information:
STRATCON@octopus.wr.usgs.gov

IGCP Project no. 396

Continental shelves in the Quaternary
3rd Annual Conference

Goa, India. October 26-30, 1998

Abstract deadline: June 30

Early registration and hotel reservation: July 31

Details and registration form - <http://www2.env.uea.ac.uk/gmmc/igcp/goa/igcp98.html#Dates>

概要は第四紀通信 Vol. 5, No. 1 に紹介しました。
最新情報は上記ホームページをご覧ください。

第17期・第1回第四紀
研究連絡委員会議事録

日時：1997年11月4日(火) 13:30 ~ 17:00

会場：日本学術会議第4部会議室

出席：鎮西清高 太田陽子 小野 昭
小野有五 小池裕子 小泉 格
酒井潤一 町田 洋

欠席：大場忠道 坂上寛一 砂村継夫
増田富士雄 吉川周作(敬称略)

1. 最初に役員選挙が行われ、第四紀研連委員長に太田陽子氏、幹事に町田 洋氏と小野昭氏が選出された。

2. 報告事項：

- 1) 第17期の活動方針について、鎮西清高氏から報告があった。報告は「日本学術会議第17期活動計画(申し合わせ)」(資料配布)を要約して行われた。特に第4部では、研連の見直し問題に関しては、第16期の約束すなわち研連の統合(削減)の約束は守ることが確認され、これに伴って「第四紀研連」は「専門委員会」になる可能性が高い旨、報告された。
- 2) 第16期の活動報告が太田氏からあった。(資料配布)

3. 審議事項：

- 1) 国際地形学会議について、鈴木隆介氏(オブザーバーとして出席)から報告があった。西暦2001年に、東京で第5回の国際地形学会議を開催するにあたり、第四紀研連に協力要請がおこなわれた。具体的な協力要請の中身については今後提出してもらうことので了承した。「第5回国際地形学会議の概要」(資料配布)
- 2) 理学総合連絡会(理総連)へ、第四紀研連からの代表を選出する件に関し、委員長(太田氏)がこれにあたることを確認した。
- 3) 平成10年度国際会議代表派遣の件につき、下記のとおり決定した。
推薦

- 1位 ICAZ (Archaeozoology) 小池裕子氏
- 2位 火山災害の防止プロジェクト 町田 洋氏
申請書類締め切り 12月15日

4. その他

出席者が必ずしも多くなかったため、「17期活動方針」と「研連見直し問題」については、次回に集中的に議論することとした。それを前提として、研連の見直し問題について、鎮西氏から、第4部での動向について補足的な説明が行われた。

会員名簿の発行について (重要)

日本第四紀学会 1998年度会員名簿の作成に関し下記につきご協力をお願いいたします。

1. 会員名簿の訂正・異動の通知をお願いいたします [5月30日締切]

1995年の名簿・異動時の会員消息の訂正や最近の異動がありましたら、学会事務センターあてご通知ください。異動のない方も念のため1995年の会員名簿のご自分の項をご確認願います。連絡には1995年版会員名簿末尾の名簿カードをお使い下さい。名簿カードをお持ちでない方は、〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会事務センターC21 日本第四紀学会 会員業務係 あて文書にてお知らせ下さい。この件に関するお問い合わせは学会事務局 (Phone: 03-5814-5810, Fax: 03-5814-5820) まで。

2. 電子メールアドレスをお知らせ下さい [希望者のみ: 5月30日締切]

新しい会員名簿には、本体の名簿とは別に電子メールアドレスのリストを掲載します。電子メールアドレスのリストは、当面学会事務センターの会員業務とは切り離して広報委員が作成します。会員のメールアドレスは(1) 会員名簿に掲載する、とともに(2) ホームページ上のパスワードで保護されたページで会員に限り公開する予定です。(1)か(2)いずれか一つの方法も選んでいただけます。リストの掲載内容は、氏名・所属機関の略称・電子メールアドレスです。以下の要領で電子メールによりアドレスをお伝え下さい。

リスト作成用アドレス: kojiok@lett.hiroshima-u.ac.jp あて、以下のような本文2行からなる電子メールをお送り下さい。和文を記入する部分以外は英数半角文字で例のとおり正確に作成して下さい。

形式 JQRADRS # [漢字姓名] # [ひらがな姓名] # [所属(5文字以内)] # [アドレス] # [掲載希望] <改行>
EQRADRS # [Lastname-Firstname] # [affiliation (short)] # [address] # [disclosure level] <改行>

例 JQRADRS # 四紀花子 # よんきはなこ # 地球大学理 # hanako@host.domain.ac.jp # 3
EQRADRS # Yonki-Hanako # Chikyu-Univ # hanako@host.domain.ac.jp # 3

行頭に JQRADRS (和文) および EQRADRS (英文) を大文字で付し、区切り記号は半角の # 一つです。余分なスペースや記号を挿入しないようご注意ください。所属は短くして下さい。所属のない方は『無所属 / none』と記入して下さい。アドレスは正確に。掲載希望は - 0: 希望しない, 1: 名簿のみ, 2: ホームページのみ, 3: 両方、のいずれかを選んで 0 ~ 3 の半角数字一つを入力して下さい。[] は不要です。英語の単語間にはハイフンを入れて下さい。問い合わせは広報委員 kojiok@ipc.hiroshima-u.ac.jp まで。

3. 会員名簿に広告を掲載されませんか? [6月中旬締切]

広告掲載(有料)を希望される方は上記学会事務局までご連絡下さい。発行予定部数は2500部です。

1997年度第2回評議員会議事録

日時：1998年2月14日(土) 11:00～14:00
 場所：お茶の水女子大学生活科学部本館2階208号室
 議長：新井房夫
 出席者：太田陽子(副会長), 赤澤 威, 赤羽貞幸,
 新井房夫, 糸魚川淳二, 上杉 陽, 遠藤邦彦,
 大村明雄, 奥村晃史, 小田静夫, 斎藤文紀,
 酒井潤一, 坂上寛一, 杉山雄一, 辻誠一郎,
 土 隆一, 町田 洋, 松浦秀治, 松下まり子,
 松田時彦, 真野勝友, 吉川周作, 山崎晴雄
 (以上評議員) 委任状15通

I 報告事項

1. 1997年度中間事業報告

1-1 庶務

- (1) 会員動向(1997年12月31日現在): 正会員1,878名(うち, 学生費会員169名, 海外会員23名を含む), 名誉会員7名, 賛助会員15社, 団体購読会員105団体. 逝去会員は島倉巳三郎氏.
- (2) 1997年度第1回評議員会を1997年8月5日に北海道大学大学院地球環境科学研究科会議室で開催した. 出席者26名, 委任状18通. 議長: 小泉 格. 8月6日には北海道大学学術交流会館大講堂において日本第四紀学会総会を行った.
- (3) 以下のシンポジウム・講演会等の協賛および後援を行った.
 - ・第12回「大学と科学」公開シンポジウムセッション「マグマと地球」(97.11.2～3: 文部省学術国際局)
 - ・セッション「文化財を探偵する」(98.1.31～2.1: 文部省学術国際局)
 - ・海洋調査技術学会第9回研究成果発表会(97.11.14～15: 海洋調査技術学会)
 - ・第5回アジア学術会議 科学者フォーラム(98.3.10～13: 日本学術会議)
- (4) 学術会議第四紀研連委員候補者として, 小泉格, 吉川周作, 増田富士雄, 小野有五, 町田 洋, 小池裕子, 小野 昭, 坂上寛一, 大場忠道, 太田陽子の10氏を推薦した. 古生物研連へは小泉 格氏を推薦した.
- (5) 日本地理学会より依頼のあった地理学協会連合(仮称)準備会への出席・加盟については, 日本第四紀学会は参加しないことに決定した.
- (6) 7月現在, 長期の会費未納により雑誌の発送停止となっている会員155名に対しては, 状況を示すリストを整え, 会費請求の督促を行った上で, 除籍等の対応を行うことにした.
- (7) 寄贈図書 of 整理を行った.
- (8) 機関誌財政等検討委員会を設立し, その事務を行った.
- (9) Island Arc 紙のEditorial Advisory Boardメンバーに斎藤文紀氏を推薦した.

1-2 編集

- (1) 「第四紀研究」36巻4号(原著論文4編, 短報1編, 書評1編, 64頁), 5号特集号「最終氷期の終

焉と縄文文化の成立・展開(編集委員長 米倉伸之: 論文7編, 講演要旨再録3編, 書評2編, 84頁), 37巻1号(原著論文4編, 総説1編, 書評3編)を編集した. 但し37巻1号は1998年2月に刊行予定である. これに加えて, すでに受理済みの論文は2編で, 37巻2号に掲載予定である. 審査中の論文は24編である.

- (2) 昨年8月の札幌大会以降, 編集委員会は大阪から東京へ移った. 実質的には1997年7月中旬から, 新委員会への編集業務の引継が順次行われ, 審査中の原稿も1997年11月段階までに, ほぼ順調に移行手続きができた. 引継後6カ月間の投稿原稿は短報を含め15編(内5編が英文論文), 書評5編である.(3) 編集委員会では, 原著・総説・短報・書評以外にも, 掲載項目を増やすことを目標とし, まず「解説」をシリーズで掲載することを検討し, 実行することを決めた. また37巻1号から「編集委員会だより」を巻末に掲載し, 編集委員会の動きが多少なりとも, 会員に解るよう, 試みることにした. 前委員会から引き継いでいる, 懸案の投稿規定, 執筆要項の見直しも, 1998年5月をめどに, 編集委員会原案をまとめることを決めた.

- (4) 第四紀研究の刊行スケジュールは, 1号から5号まで順に, 2・5・7・10・12が刊行月である. これを遵守し, 特集号を大会前に刊行する原則を堅持するため, 1997年札幌大会の特集号(編集委員長 小野有五: 「東アジアから西太平洋へー陸・海・ヒトのテレコネクションー」)は7月中に刊行する.

1-3 行事

- (1) 1997年大会(総会, シンポジウム, 一般研究発表, 懇親会)を北海道大学学術交流会館において1997年8月5～7日に開催した. 5, 6日は, 一般研究発表(口頭発表61件, ポスター発表31件), 総会, 懇親会を行った. 7日は, シンポジウム「東アジアから西太平洋へー陸・海・ヒトのテレコネクションー」(オーガナイザー: 小泉 格, 大場忠道, 小野有五)(話題提供17件)を実施し, 会員及び非会員約300名が参加した.
- (2) 日本学術会議第四紀研究連絡委員会を共催で, 「アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム」(International symposium on Quaternary environmental change in the Asia and western Pacific region)を1997年10月14日～17日に東京大学山上会館において開催した. 6つのテーマについて, 合計口頭発表53件, ポスター発表34件の研究発表が行われた. 国内98名, 国外12ヶ国から42名, 合わせて140名の参加があり, 成功裏に終了した. プロシーディングは各セッション毎に出版される予定である.
- (3) 1998年5月26日～29日に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる地球惑星科学関連学会合同大会に参加するため「第四紀」のセッション提案等の準備を行った. 合同学会のプログラムの会員への配付に関しては 経費削減のため, 希望者のみの配付に変更した(第四紀通信4巻6

号参照)(4)1998年日本第四紀学会大会の総会、シンポジウム、巡検等の準備を行った。大会は、1998年8月26日～28日に神奈川県生命の星・地球博物館で行われる(実行委員長:濱田隆士)。26日～27日に評議員会、一般研究発表、総会、懇親会、28日にシンポジウム「相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス」(オーガナイザー:太田陽子、山崎晴雄、ほか)を予定している。また29日(～30日)に町田 洋氏ほかの案内による巡検と、松田時彦氏による普及講演会を準備中である。評議員会は8月26日の一般研究発表後に開催の予定である。

- (5)1999年日本第四紀学会大会の会場選定を行い、京都大学に依頼を行い、岡田篤正氏から受諾の返答を得た。

1-4 企画

- (1)第5回第四紀講習会を10月18・19日に青森県の三内丸山遺跡体験学習館で開催した。テーマは「遺跡の環境と生業の復元II 動物遺体群を調べる」で講師は西本豊弘・樋泉岳二・岡田康博の各氏にお願いした。参加者は25名。第一日目は動物考古学の解説と縄文時代の道具・手法によるイノシシの解体、骨格標本の作製実習を行った。第二日目は遺跡から出土している魚類の骨格標本作製実習を行った。この実習の様子はテレビ、新聞等にも取り上げられ、第四紀学会の活動の一端が社会に報道された。
- (2)日本第四紀学会ミニシンポジウムを1998年2月14日に開催すべく準備を行った。テーマは「南西諸島喜界島のサンゴ礁段丘に関する諸問題と最近の成果」でオーガナイザーは太田陽子・大村明雄・中森 亨、会場はお茶の水女子大学生活科学部本館2階208号室である。ポスターを作成し、関東を中心に主要機関に送付した。
- (3)「第四紀露頭集」は昨年9月から12月までに102冊を販売した。このうち、東京の六一書房では60冊を販売してもらった。
- (4)第6回第四紀講習会を6月か7月に開催すべく準備を進めている。テーマは「年代を測る 放射性炭素年代の測定に向けて」を考へており、年代測定の原理、基礎的問題、測定試料の検討と準備、試料調整の実際を講習する。講師は中村俊夫(名古屋大)・今村峯雄(国立歴史民俗博)の各氏ら。会場はさまざまな試料や設備のある国立歴史民族博物館を第一候補と考へている。

1-5 広報

- (1)「第四紀通信(QR Newsletter)」Vol. 4-5(1997年9月)、Vol. 4-6(1997年11月)、Vol. 5-1(1998年1月)を刊行した。(2)文部省学術情報センターのインターネットWWWサーバ上の日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。

1-6 渉外

- (1)自然史学会連合(32学協会)の定期総会が1997

年10月25日に開催され、引き続き同連合主催の第3回シンポジウムが開催された。科研費「自然史科学」(時限付き)では、申請件数が多くないと最終年度(平成11年度)で打ち切られる恐れがあるため、この分科細目に多くの申請が出されることが望まれる。大学博物館に関する要望として「大学博物館と模式標本類の保全についての要望」という文書を連合代表名で大学当局宛に送付することとなった。

- (2)1998年地球惑星科学関連合同大会のお知らせが1997年12月に届いた。ニュースを第四紀通信に掲載するように手配した(第四紀通信、Vol.4, No.6, 1997に掲載済み)。なお、プログラム集を送付するため、3月31日までの会員名簿の修正最新版を合同大会運営事務局へ連絡することとなっている。

- (3)地球環境科学関連学会協議会の第1回協議会が1997年12月22日に開催され16学会から代表が出席した。これからの事業・企画(シンポジウム・一般講演会の開催、出版物・協議会ニュースの発行など)、共同研究や地球環境教育の構想などについて討論された。

2. 1997年度会計中間報告

1997年12月31日現在の収支試算表(別紙2)について

- (1)会費収入は例年同様順調であるが、誌代については露頭集の売り上げが伸びず、目標を下回っている。雑収入は名簿作成に伴う広告料約80万円を今後見込んでいる。
- (2)支出については、会誌36巻3号印刷費が昨年の3号より約70万円減、予稿集印刷費は予算を約20万円超過(札幌大会での発表件数が多かったことによる。理解いただきたい)、その他はほぼ予算通りで、全体として現時点では昨年並みかやや抑えられている。また、特別講演会費は余剰がある見込みである。しかしながら支出が収入を上回っているという第四紀学会の会計状況に変わりはない。

3. 機関誌等財政検討委員会について(報告)

1997年度第1回評議員会および日本第四紀学会総会で設立が承認された機関紙財政等検討委員会は1997年11月15日の第5回幹事会において、海津正倫、小田静夫、小池裕子、杉山雄一、鈴木三男の各氏を委員とすることに決定した。1998年1月24日、東京大学理学部において第1回委員会を開催し、委員長に小池裕子氏を選出した。この委員会は1998年評議員会および総会で財政健全化のための具体的提言を行うべく数回の審議を予定している。第1回委員会では米倉会長の挨拶および委員長選出の後、現在の財政状況に至る経過とその原因の分析が杉山委員より紹介され、それに基づいて、現在の会費の価値(会員にとって会費に見合う利益があるかどうか)や支出削減の方策、第四紀学会の出版事業、講習会、機関紙編集等、学会活性化の諸方策について、フリートーキングで各委員の意見・提案が述べられた。

4. 日本学術会議第四紀研連報告

太田陽子第四紀研連委員長より、第17期学術会議第四紀研究連絡委員会が新メンバーにて発足し太田陽子会員が委員長に選出された旨報告があった。

II 審議事項

審議事項に関しては以下の幹事会提出の原案が、7.の一部を除いて承認された。

5. 1999年大会の開催地について

1999年日本第四紀学会大会については1999年8月に京都大学で実施する。京都大学理学部を会場として、8月23日～24日一般研究発表、25日シンポジウム、26-27日巡検を基本に実施案を検討中である（実行委員長：岡田篤正、副委員長：増田富士雄：委員：竹村恵二ほか）。

6. 論文賞選考委員の推薦について

1997年度第1回評議員会で改正された学会賞規定第5条および論文賞選考に関する内規の4項に基づき、米倉伸之会長から以下の11名の正会員が論文賞選考委員候補者として推薦された。評議員の投票によりこの中から5名が論文賞選考委員として選出される。

委員候補者（11名）：松田時彦（地質学）、小泉武栄（地理学）、小泉 格（古生物学）、小沢幸重（動物学）、鈴木三男（植物学）、坂上寛一（土壌学）、

赤沢 威（人類学）、春成秀爾（考古学）、徳永英二（地球物理学）、大場忠道（地球化学）、陶野郁雄（工学） 以上

7. 長期会費未納会員の除籍について

1997年末の第3回会費請求にあたって、2年以上の会費未納により機関紙の発送停止となっている会員に対し、会費納入依頼と未納の場合の処置を通告した。その後、会費納入は改善されているが、未だ長期未納の会員もいる。これらの会員は会費支払いの意志がないものと見なされるので、2月12日現在の会費納入リストに基づき4年以上の長期会費滞納者を除籍とする。

8. 電子メールアドレスについて

(1)1998年夏に発行される日本第四紀学会会員名簿に会員（希望者）の電子メールアドレス一覧を掲載する。

(2)日本第四紀学会ホームページ上に会員（希望者）の電子メール名簿を整備し試験運用する。

(3)日本第四紀学会メーリングリストを開設し会員にインターネット上での議論・情報交換の場を提供する。

このうち(1)と(2)について承認された。(3)についてはメールを持っている会員とそうでない会員の間に情報伝達に関して不公平が生じるのではないかととの異議が唱えられ、(3)については幹事会で引き続き検討する事になった。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい
第四紀学会広報委員会 広島大学文学部地理学教室 奥村晃史
〒739 東広島市鏡山1-2-3 kojiok@ipc.hiroshima-u.ac.jp
Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320
次号は5月中旬原稿締切 - 5月下旬発行予定です。
お詫び：第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/>
の更新が遅れていて申し訳ありません。